

2011 年度大阪女学院大学事業報告書

I. 建学の精神、教育理念

キリスト教に基づく人間形成のため、本学では、まずは、日々の学生生活を通して自己の存在そのものに目を開き、さまざまな気づきを得て、自己の新しい姿を見出していくことを学生一人ひとりに求めている。特に、毎日の礼拝、クリスマス等の特別礼拝、1年次の1泊2日で行うリトリートが、一人ひとりの学生が自らの姿とキリストの教えに気づく機会として有効であることは、毎春の卒業アンケートの結果にも表れており、これらキリスト教教育プログラムへの出席を促すため、キリスト教教育委員会が努力を重ねている。

2011 年度、全員参加を求めた1年次のリトリートの出席率は81.6% (前年度76.5%) で若干改善した。しかし、クリスマス礼拝への在学生の積極的な参加として、聖歌隊、ハンドベル・クワイアへの参画を勧めているが、短期大学との合同で編成する聖歌隊は11名 (前年度24名)、ハンドベル・クワイアは21名(前年度16 名)であった。聖歌隊については大幅に減じており、短期大学と大学が一緒に行う毎日の礼拝の出席者数の低迷が影響しているためと思われる。この点を勘案し、2012年当初から日々の礼拝の出席者数の回復を図る全学的な取り組みを始めることとした。

また、他の文化と接触し、その文化の中で生きる人々と関わってゆく学生にとって、折々の人々との出会いについて、双方の状況や抱えている問題への確かな認識が必要である。わけでも人権問題は避けることのできない大切な問題となる。この問題について、共に集い、集中して考える場として「人権教育講座」を設定している。この講座を通して本学の理念を理解する効果があり、講座受講後の満足度も極めて高い取組である。対象年次を1・2年生から3・4年生にも広げたこともあり、受講者の減少傾向が止まり、昨年度からは増加に転じている。3・4年生を主な対象にした取組の検討等、学生の人権学習の機会拡大に取り組む。

II. 学習支援・教育効果の改善

1. カリキュラム改訂

建学の精神・教育理念に基づいて、グローバルなレベルでの国際通用性のある英語能力と教養力を実現し、深い配慮をもって社会に積極的に関わる女性を育成する学士課程教育の更なる向上を目指し、2012 年度導入に向けたカリキュラム改訂作業を、全教職員が各分野の WG メンバーとして参加し策定した。新学部組織及び新カリキュラムの概要は以下のとおり。

(1) 新学部組織として専攻及び専修・コースを設けた

専攻	領域	専修
国際ビジネス専攻	国際ビジネス領域	国際ビジネス専修
国際コミュニケーション専攻	英語コミュニケーション領域	教職専修
		英語コミュニケーションコース
国際関係法専攻	国際共生領域	国際協力コース
		国際関係法専修

(2) カリキュラムの特色

- a) 「学士課程答申」における「大学の機能類型」を設定し、本学の個性・特色を明確化させた。
- b) 英語教育、教養教育、専門教育の有機的な統合・発展を図り、学生一人一人が効果的に学習することにより、その成果として個々の将来の進路に結びつくことを目指す。
- c) キャリア形成、社会人基礎力の育成をも見据えたカリキュラム編成とし、演習科目を多く配置した。
- d) GPA、ベンチマークシステムを導入し、教育の質保証を図る。

2. 学習支援の実質化

学習習慣の形成、学習意欲の高め方、授業への準備のあり方、本学における英語を中心とした効果的な学習法等について、導入教育段階にとどまらず学生が学びのヒントを得ることが出来ることを狙いとして、本学の学習サポート委員会が作成した「Study Skills & Tips at OJC」(学びの手引き)を、入学時の Overnight Orientation を始めとして機会あるごとに活用し、学生の意識変革を継続的に促す。

3. 入学前学習支援・リメディアル教育の方策改善の必要

(1) 入学前学習支援

前年度の退学者や欠席累積者との面談から、次の入学対象者に焦点を絞って、支援の充実を図った。年度内に入学が決定する指定校推薦と公募推薦(前期・後期)合格者に加え、3月末にはこれら以外の入学手続者全員に資料と課題を提供した。(入学後に提出された国語課題などは添削して、5月に返却した。)

a) 退学ないし、不適応の理由:

- ・本学が大切にしている建学の精神はじめ授業内容をよく理解していない。
- ・対人関係が苦手。
- ・合格後、継続して学習していない上に、学習習慣が十分身につけていない。

以上から次のような狙いを持って支援した。

b) 入学前学習の狙い

- ・本学への理解を深め、不安を軽減し、学習意欲を高める。
- ・国語力と英語力を少しでも向上させ、入学後の授業などにつなぐ

c) 支援内容

- ・2011年11月20日の大学祭と2012年2月16日に Pre-Orientation を実施し、本学での学びへの理解を深め、先輩との交流を通して学習意欲の喚起に努めた。

第1回および第2回とも出席率は約95%だった。

- ・国語力と英語力向上のための課題

国語力向上のため:Z会と協調し、次の課題を作成した

- ① 章の読み方とまとめ方の方法(冊子作製)
- ② テーマ型の課題 添削後、どこが弱かったのか、どの点に留意をして文章を読むことが大切なのか、などについて解答例を示しながら、添削文を返却。

総合得点結果により履修科目の指導説明文を郵送する。

- ・英語力向上のため:入学後に使用する教材の短文を録音し、聞き取りと日本語訳を課す。
覚えておく必要のある Vocabulary をリストアップして提示。
- ・高校生活のふりかえり
振り返った内容を入学後のオリエンテーションに活かす。
- ・読んで心に残っている書籍リストを作成。入学後、1年生必修科目の「大学教育と社会」の授業に結び付ける。

(2)リメディアル教育の方策と改善

- ・大学カリキュラム改訂の段階で各専攻別に必要な科目の配当はできたが、入学者の学力を考えて十分に配当できたとは言えない部分が残る。
- ・各専攻別の履修指導の際に、基礎知識として必要な科目の認識に関しては、アカデミック・アドバイザーのサポートが重要。
- ・英語教育の知識・背景も踏まえた検討が必要。

4. 学習時間の確保のための生活支援の新たな方策

- (1)大学在学中で奨学金サポートが必要な3,4年次の成績優秀者に対し、給付対象年度の授業料を減免する制度を設定。ただし、2010年度入学生には該当者がいなかった。
- (2)学費未納や滞納している学生に対して、法人事務部と連携して対応案を作成し、保護者はじめ学生に対してきめ細かい対応を実施。秋学期時点で約100件あった学費未納者数を約20件まで減少させることができた。今後もこの対応を試行しながら、マニュアルを作成する予定。

5. 学生の希望の組織的聴取

2009年度からスタートした、Big Sister を中心とする学生との懇談を通じて、学生生活及び学習活動への期待や視点を反映させる企画を実施しているが、開催が散発的であるため、来年度は定期的な開催など、より積極的な学生参画プロジェクトの推進が課題である。

6. 卒業生のふりかえりの組織的聴取

予定していた調査の目的や実施方法等で整理できていない点や、回収率の点で分析・利用段階に達していない。このため、自由記入欄の読み取りを行って、2012年度からスタートしたカリキュラム改訂への反映に努めた。

7. FD活動の実質化

本年度も本学が伝統的に進めてきたティーム・ティーチングなどシステムとしてのFD活動を行なった。特に今回は大学の教育改革を中心に大学から大学院までの教育課程、およびインディペンデントスタディ等教育方法の検討について、ワーキンググループを全学規模で結成した。4月16日を皮切りに検討領域別の代表者等15名が集う会議を計15回にわたって開催し、協議結果をFD&SDとしていかに周知するかということも含めて協議した。以下に実施状況を示す。

実施内容および方法

- (1) 学生による達成度評価(授業評価)アンケートを授業終了後に実施。

- (2) 短大と大学が合同で、FDフォーラム「Independent Study」を2011年4月1日に実施し、23名が出席。
- (3) 短大と大学が合同でFD&SD「Independent Study の構想」を2011年4月13日に実施し、54名が出席。
- (4) 短大と大学が合同でFD&SD「中期計画」を2011年6月8日に実施し、56名が出席。
- (5) 短大と大学が合同でFD&SD「大阪女学院大学・短期大学の歴史」を2012年1月11日に実施し、54名出席。

学生による達成度評価は、授業改善に資するため担当者に報告し、大学院教授会でも報告された。FDフォーラム等で、取り上げたテーマ「Independent Study」は、新しい授業方法の展開や授業内容の改善に資する取り組みとしてとらえた。また、教育改革とは別に人権教育の一環として大学と合同でFDフォーラムを以下の通り実施した。

(6) 2011年10月28日

テーマ:「学校、特に大学と人権」、講師:香川孝三(本学教授)、場所:本学第一会議室

8. 担当分野別研究会の充実(加藤先生)

大学のカリキュラム改訂に集中した結果、当初計画で挙げた項目については、ほとんど着手できなかったため、本項目については2012年度以降に実施方法などを検討する。

9. 社会的貢献と結びつく参画授業・経験学習の充実

学部教育組織の検討は、教育課程全体について領域別ワーキンググループを編成して検討を進め、2012年度からスタートしたいいわゆるキャリアパス(Career Path)、学習成果が就業との関係でいかに結びつくかを示し、学生が、それをめがけて学修することを明確にしたカリキュラム改訂に結びついた。この検討の過程で議論された参画授業・経験学習の設定は、来年度以降に実行に移される予定である。

10. 高大連携活動の充実

国際理解や語学学習への関心を高め、高大連携を促進するために、現在も multicultural day など高等学校のプログラムへの本学のネイティブの参加をはじめ連携を継続しているが、連携の充実と進学志望先としての本学選択は直接的にはつながっていない。学生募集に短期的につながる連携と、(女学院高校との連携のように)中長期的につなげていくものを切り分けて考える必要がある。

11. 学習継続のための支援体制の再整備

学生カルテと学生のポートフォリオを作成予定であり、学習ポートフォリオ作成の下準備用のデータ取り込みは完了した。2012年度の実施をすることになったアカデミック・アドバイザー制度による面談記録の保管などは、今後検討する予定である。

12. 就職支援活動の充実

2011年度3月末現在の就職率は、就職希望者の94.0%(巨大企業13.9%、大企業15.2%、中小

企業、その他70.9%)となり、東日本大震災による雇用機会の減少が懸念される中、文部科学省・厚生労働省の2012年4月1日調査の就職率よりも若干上回る実績となった。ただし、全国的な傾向と同様、本学でも学生の就職先が巨大・大企業から中小企業にシフトしてきている状況である。

また、キャリアサポートセンターでは、3月末現在で就職できていない学生に対しても就職指導を行っており、就職を希望する学生にはサポートを継続している。

2011年度で特に効果が上がったことは、就職支援システム「ジョブハンター+S」での学生管理及びGP担当教員との連携である。「ジョブハンター+S」で相談履歴の蓄積、情報発信等、学生一人ひとりにきめの細かいサポートができるようになった。

また、GP(卒業研究)担当教員との情報交換を密にして、受け持つ学生の就職活動状況がわかるように、例年7月実施しているGP担当教員との懇談会を11月にも実施し、11月以降も毎月学生情報を提供した。これにより、教員との情報交換が進み、12月以降の内定実績に繋がった。

次年度就職活動を行う3年生は、昨年度から企業と学生が接触できる時期が12月以降となったため、短縮された期間で就職活動が展開される事を考え、よいスタートが切れるよう本学の就職ガイダンスを1ヶ月早めて5月に実施した。サポート内容は、就職ガイダンス、企業研究・企業説明会の実施、エントリーシートの書き方、SPI テスト向けの講座、面接の受け方やロールプレイ、就職活動の服装・化粧・マナー講習、GP(卒論)担当教員とキャリアサポートセンターとの連絡会等で、小規模大学の特長を活かして、学生一人ひとりをきめ細かく見据えた指導を行っている。

当面の課題としては、本学の企業説明会に参加して頂ける企業の増加と進路不明者を無くす事が大きな課題である。また、2012年度より、大学では出口を見据えた新カリキュラムがスタートし、各学生の習熟度に応じた履修ができるように改革される。この教育課程の中で育つ学生に対してなるべく早くからキャリアに関し気づき、就職意識・意欲が備わるような取り組みが必要と考える。

Ⅲ. 国際交流の充実

1. 国際交流全般の整備・拡充

昨年度に引き続き、提携機関との関係をさらに深め、殆どのセメスター留学制度提携大学との間で同意書を交わすことができた。また、昨今の情勢に倣い、本学においても留学希望者が減少気味であったが、学生が積極的に国際交流プログラムへ参加できるようオリエンテーションを含む指導体制等を充実させた結果、特別派遣留学とセメスター留学では、プログラム参加許可学生を選抜しなくてはならない程、希望者の増加が見られるようになった。これらの成果は特筆すべきもので、国際交流を進める上で大きな励ましともなった。

2. 留学期間の延長

履修条件の整備等、学内での体制を整えた結果、ブリッジプログラムの実施が可能となった。この新制度を活用し、2011年度から2学期(約10か月)にわたり提携大学へ留学している学生が、素晴らしいレポートを留学先から送ってきている。ぜひ後に続く学生を輩出したい。

3. 留学新生受け入れ体制の整備

カリキュラム上の受け入れ体制の整備を図りながら可能性を探り、予算を増やさない枠内で留学新生受入体制の実施可能案を作成した。ただし、大学の諸事情によりその後の進展は見送られている。

4. 派遣留学奨学金制度の見直し

財政難の中ではあったが、海外プログラムの奨学金に対しては、教育効果などさまざまな点が考慮され、ほぼ予算通りの額が支給された。その結果、上記1、2のような一定の成果を挙げることができた。

IV. 教員養成センター

1. 学校現場支援

(1) 教員免許状更新講習（定員 30 名）

2011 年度 3 回の免許状更新講習を実施(合計 18 時間)

講習1「コミュニケーション・ルール:その基盤となる概念を考える」

期 日:平成23年8月8日(月) 9:20～16:50

■講座のねらい

- ・ ディベートの考え方 ―論理的に説得することの意味とそれに必要なこと―
- ・ 異文化間コミュニケーションの考え方 ―違いを理解し表現すること―

■講習評価 受講者(32名) 3.6(4段階評価)

講習2「体験型ワークショップ:発音指導の見直しと音読指導の方法」

期 日:平成23年8月9日(火) 9:20～16:50

■講座のねらい

英語の音声面に焦点を当てた体験型ワークショップを行う。

■講習評価 受講者(33名) 3.8(4段階評価)

講習3「教材の開発 ―その基盤となる考え方と工夫―」

期 日:平成24年3月10日(土) 9:10～16:40

■講座のねらい

- ・ 教材開発に役立つジャンルの考え方
- ・ 教材開発の方法 ―教材を見る視点、使う視点、開発する工夫―

■講習評価 受講者(23名) 3.9(4段階評価)

全講習の受講者コメントは、

本学教員養成センターHP:<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate/>

に全て掲載。本コメントを閲覧して、現場教員は受講申し込みをしている。受講者のコメントは講習を高く評価する記述がほとんどである。

夏季に行う更新講習は、4月中旬受け付け開始2週間以内に定員に達する。

(2) 勉強会「英語の教え方教室」

新学期・夏季休業・春季休業の時期を除いて、学校現場の教員との勉強会を年 7 回実施

第8回 2011(平成23)年5月21日(土) 14:00～17:00

「元気がでる・やる気がでる英語授業」実践報告

枚方第二中学校 岡 順二 教諭

「明日からの授業実践のために ―英語授業の哲学―」

大阪女学院大学 中井 弘一

第9回 特別講演 2011(平成23)年6月18日(土) 14:00～17:00

「授業改善に向け他校種に学ぶ ― 豊かな心をはぐくむ外国語教育 ―」
大阪府教育センター カリキュラム研究室長 蛭田 勲

第10回 2011(平成23)年7月16日(土) 14:00～17:00

「英語を教えて28年…私の授業点描」 大阪府立阿倍野高等学校 喜多 千穂 教諭

第11回 2011(平成23)年10月15日(土) 14:00～17:00

「日本語感覚からネイティブ感覚へ ―英語のおもしろさを―」
大阪女学院大学 中井 弘一

第12回 2011(平成23)年11月28日(土) 14:00～17:00

「PISA 型読解力を育む英語授業とは～全国初教育センター附属研究校での取り組み～」
大阪府教育センター附属高等学校 森下 信明 教諭

第13回 2011(平成23)年12月10日(土) 14:00～17:00

「なるほどと思う授業の取り組み紹介」 大阪女学院大学 中井 弘一

第14回 2012(平成24)年2月18日(土) 14:00～17:00

「GUEP(Global Understanding through English Presentation)の授業紹介と工夫」
兵庫県立国際高等学校 真田 弘和 教諭

毎回、10 数名から 20 数名の参加で、研究会というより、寺子屋的な参加者討論型の勉強会となっている。

本勉強会の内容紹介や討論報告は全て、

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course>

に掲載している。学校行事等で参加できなかった人にも、その回の討論内容が分かるように報告を極力詳細に掲載している。

2. 教員養成センター・ホームページ <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

・巻頭現リレーエッセイ毎月更新

第十五号(April) 間違いを恐れない覚悟(夫)

第十六号(May) 心の中の神々(中垣)

第十七号(June) 第5回学習指導基本調査にみる中学校・高等学校での学習指導(中井)

第十八号(July) Crisis in Japan, Crisis in Communication(東條)

第十九号(August) Stand with grace, pride, and modesty(夫)

第二十号(September) 大阪の残暑はこれから(中垣)

第二十一号(October) 来年度教職 Field Study 訪問予定 英国 Manor Church of England Schoolを訪ねて(中井)

第二十二号(November) 人、言葉、英語 ―スティーブ・ジョブズ追悼―(東條)

第二十三号(December) 絆 2011(夫)

第二十四号(January) 思いやりの広がり(中垣)

第二十五号(February) 大阪女学院大学「教職課程」から教職専修としてさらなる充実をめざします(中井)

第二十六号(March) 韓国の英語教育に学ぶ(東條)

・月別 HP アクセス件数推移

2011年度 教員養成センター HP アクセス推移

4月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	314	230	00:00:36	18.18%	14.01%
OJC教職ネット	86	62	00:00:12	57.14%	10.47%
教育ニュース	40	38	00:00:14	86.67%	77.50%
教室に時事英語を	12	9	00:01:06	50.00%	25.00%
英語教育指導アイデア集	31	29	00:00:52	88.89%	67.74%
書籍紹介	127	69	00:01:04	45.45%	20.00%
これまでの書籍紹介	39	29	00:04:28	100.00%	31.82%
Newsletter	230	183	00:01:20	62.00%	30.00%
機関誌	44	28	00:00:32	0.00%	15.91%
講習案内	338	282	00:01:17	76.58%	44.67%
教員免許状更新講習	582	472	00:02:01	77.50%	56.19%

5月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	199	158	00:01:11	21.88%	17.09%
OJC教職ネット	51	42	0:00:25	0.00%	5.88%
教育ニュース	86	81	00:00:47	87.14%	77.91%
教室に時事英語を	12	9	00:01:06	50.00%	25.00%
英語教育指導アイデア集	20	20	00:00:57	100.00%	85.00%
書籍紹介	59	42	00:00:58	93.75%	44.07%
これまでの書籍紹介	20	17	00:01:44	83.33%	50.00%
Newsletter	41	40	00:01:29	33.33%	14.63%
機関誌	12	11	00:00:16	0.00%	8.33%
講習案内	251	218	00:01:48	84.78%	52.19%
教員免許状更新講習	523	438	00:01:31	76.34%	68.07%

6月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	230	166	0:01:02	40.00%	21.30%
OJC教職ネット	46	40	00:00:12	66.67%	8.70%
教育ニュース	90	76	00:01:58	87.30%	72.22%
教室に時事英語を	6	6	00:00:36	100.00%	66.67%
英語教育指導アイデア集	31	28	00:03:33	86.36%	70.97%
書籍紹介	57	45	00:01:43	83.33%	43.86%
これまでの書籍紹介	17	16	00:00:40	100.00%	76.47%
Newsletter	35	28	0:01:09	0.00%	8.57%
機関誌	10	9	00:00:07	0.00%	20.00%
講習案内	142	121	00:02:12	83.78%	45.07%
教員免許状更新講習	652	552	0:02:04	82.13%	67.79%

7月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	165	127	00:00:50	34.78%	20.61%
OJC教職ネット	42	34	00:00:10	66.67%	11.90%
教育ニュース	99	86	00:02:25	84.93%	71.72%
教室に時事英語を	8	6	00:01:16	50.00%	50.00%
英語教育指導アイデア集	29	22	00:02:39	88.24%	65.52%
書籍紹介	74	54	00:02:36	79.17%	45.95%
これまでの書籍紹介	16	15	00:01:40	91.67%	75.00%
Newsletter	141	122	00:01:28	65.00%	29.79%
機関誌	8	7	00:00:14	0.00%	25.00%
講習案内	119	97	00:02:39	82.35%	63.87%
教員免許状更新講習	205	174	00:02:26	80.43%	55.61%

8月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	185	130	00:00:49	21.43%	14.59%
OJC教職ネット	46	38	00:00:15	0.00%	6.52%
教育ニュース	74	66	00:02:12	86.67%	77.03%
教室に時事英語を	13	6	00:02:10	100.00%	15.38%
英語教育指導アイデア集	25	19	00:03:43	63.64%	48.00%
書籍紹介	36	29	00:02:01	63.64%	41.67%
これまでの書籍紹介	14	14	00:01:00	90.91%	92.86%
Newsletter	64	60	00:01:12	0.00%	17.19%
機関誌	16	14	00:00:48	0.00%	31.25%
講習案内	170	141	00:01:39	75.51%	48.24%
教員免許状更新講習	241	204	00:01:47	78.95%	54.36%

9月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	143	106	00:00:50	48.28%	20.28%
OJC教職ネット	24	16	00:00:07	0.00%	4.17%
教育ニュース	39	36	00:00:35	91.18%	84.62%
教室に時事英語を	2	2	00:00:00	100.00%	100.00%
英語教育指導アイデア集	13	11	00:01:15	85.71%	46.15%
書籍紹介	74	57	00:01:01	74.29%	50.00%
これまでの書籍紹介	10	10	0:04:49	80.00%	50.00%
Newsletter	22	18	00:01:25	0.00%	13.64%
機関誌	13	11	00:00:43	0.00%	23.08%
講習案内	168	140	00:02:45	75.29%	64.88%
教員免許状更新講習	102	87	00:01:04	77.50%	44.12%

10月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	118	103	00:00:46	32.00%	24.58%
OJC教職ネット	26	22	00:00:52	60.00%	15.38%
教育ニュース	45	41	00:03:53	92.68%	88.89%
教室に時事英語を	9	8	00:05:52	60.00%	44.44%
英語教育指導アイデア集	20	18	00:03:01	87.50%	80.00%
書籍紹介	77	59	00:01:07	86.21%	51.95%
これまでの書籍紹介	18	17	00:06:35	91.67%	77.78%
Newsletter	157	135	00:00:39	88.00%	31.85%
機関誌	11	9	00:02:11	100.00%	27.27%
講習案内	110	95	00:02:44	79.55%	51.82%
教員免許状更新講習	82	71	00:00:50	83.33%	45.12%

11月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	199	139	00:00:53	64.52%	20.10%
OJC教職ネット	69	35	00:00:58	0.00%	5.80%
教育ニュース	45	38	00:01:19	93.33%	66.67%
教室に時事英語を	82	30	00:00:46	40.00%	10.98%
英語教育指導アイデア集	28	23	00:00:51	78.57%	50.00%
書籍紹介	56	40	00:00:42	82.35%	35.71%
これまでの書籍紹介	16	14	00:00:40	88.89%	56.25%
Newsletter	104	81	00:01:18	0.00%	17.31%
機関誌	23	19	00:00:09	50.00%	4.35%
講習案内	187	151	00:01:52	78.72%	59.36%
教員免許状更新講習	108	93	00:01:07	73.08%	33.33%

12月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	153	118	00:01:01	38.89%	11.11%
OJC教職ネット	34	26	00:00:10	50.00%	5.88%
教育ニュース	59	52	00:00:35	88.37%	67.80%
教室に時事英語を	11	6	00:00:14	66.67%	27.27%
英語教育指導アイデア集	14	14	00:03:26	100.00%	85.71%
書籍紹介	63	48	00:02:36	77.42%	57.14%
これまでの書籍紹介	12	9	00:05:11	75.00%	50.00%
Newsletter	28	25	00:01:03	50.00%	21.43%
機関誌	17	10	00:00:53	100.00%	11.76%
講習案内	137	98	00:01:35	84.62%	52.55%
教員免許状更新講習	168	141	00:01:24	87.69%	51.19%

4月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	352	285	00:01:05	42.67%	22.16%
OJC教職ネット	41	33	00:00:30	50.00%	14.63%
教育ニュース	33	31	00:00:27	85.71%	78.79%
教室に時事英語を	3	3	00:00:15	100.00%	66.67%
英語教育指導アイデア集	23	22	00:01:16	82.35%	73.91%
書籍紹介	138	102	00:01:56	80.88%	52.90%
これまでの書籍紹介	15	12	00:00:30	75.00%	60.00%
Newsletter	132	101	00:01:41	67.86%	31.82%
機関誌	61	54	00:00:55	80.00%	26.23%
勉強会案内	226	206	00:01:58	81.58%	61.50%
教員免許状更新講習	523	401	00:03:01	77.58%	56.60%

1月アクセス解析

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	118	103	00:00:46	32.00%	24.58%
OJC教職ネット	26	22	00:00:52	60.00%	15.38%
教育ニュース	45	41	00:03:53	92.68%	88.89%
教室に時事英語を	9	8	00:05:52	60.00%	44.44%
英語教育指導アイデア集	20	18	00:03:01	87.50%	80.00%
書籍紹介	77	59	00:01:07	86.21%	51.95%
これまでの書籍紹介	18	17	00:06:35	91.67%	77.78%
Newsletter	157	135	00:00:39	88.00%	31.85%
機関誌	11	9	00:02:11	100.00%	27.27%
講習案内	110	95	00:02:44	79.55%	51.82%
教員免許状更新講習	82	71	00:00:50	83.33%	45.12%

2月アクセス推移

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	306	248	00:00:58	49.15%	24.51%
OJC教職ネット	47	31	00:00:36	0.00%	6.38%
教育ニュース	58	55	00:03:15	85.71%	81.03%
教室に時事英語を	11	8	00:03:10	0.00%	45.45%
英語教育指導アイデア集	19	17	00:02:35	60.00%	26.32%
書籍紹介	111	90	00:02:06	81.97%	59.46%
これまでの書籍紹介	20	15	00:01:13	64.55%	35.00%
Newsletter	60	55	00:01:45	50.00%	25.00%
機関誌	29	20	00:00:41	50.00%	10.34%
講習案内	137	105	00:01:17	65.62%	37.96%
教員免許状更新講習	208	171	00:01:48	85.26%	60.58%

3月アクセス推移

	ページビュー	ページ別セッション	平均ページ滞在時間	直帰率	離脱率
教員養成センター_TOP	210	169	00:00:46	40.43%	19.05%
OJC教職ネット	42	30	00:00:14	0.00%	4.76%
教育ニュース	45	39	00:01:16	80.00%	60.00%
教室に時事英語を	4	4	00:04:12	0.00%	25.00%
英語教育指導アイデア集	14	14	00:01:14	100.00%	57.14%
書籍紹介	75	61	00:03:00	88.24%	52.00%
これまでの書籍紹介	7	7	00:01:37	60.00%	42.86%
Newsletter	52	43	00:00:45	60.00%	13.46%
機関誌	163	109	00:01:27	64.00%	25.15%
講習案内	20	17	00:00:40	75.00%	35.00%
教員免許状更新講習	327	264	00:01:45	74.68%	61.77%

・書籍紹介 <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/literature>

現場教員への教育支援の一環として毎月数冊の新刊・旧刊図書を紹介している。昨年度は 86 冊を紹介。

3. 教職サークル・教職課程活動報告(学生)

(1)サークル活動報告

教職サークルは1年生を主体として教職に関する研究開発活動を通して、教職への早期の自覚を高め、実践的な指導力を身に付けることを目的としている。

- ・教員養成センター担当教員の空き時間で設定されたサークルタイムに事前登録をして、毎週一回そのサークルタイムにその教職担当教員と学生とが集い、教育時事問題や今求められている英語授業の方向などについて話し合っている。

(2)学生教職レポートの紹介:

「英語科教育法Ⅰ」・「英語科教育法Ⅱ」での課題レポートでよくまとめているものは、機関誌を通して紹介し、学生能達成感を高めると同時に下級生への刺激を図っている。

- ・「トータル・フィジカル・リスポンス、ジャズ・チャンツは役に立つ指導法か?」

善積実希

- ・「中学校・高等学校でのライティング指導の実際」 茨木成美

- ・「Content-based approach/ Task-based approach

ー新学習指導要領からみる内容重視の指導法の必要性ー」 茨木成美

- ・「英語教育の中での文化理解」 西田理恵

4. 教職ネットワークによる情報発信

勉強会や教員免許状更新講習の参加者等に呼びかけ、MLによる教育情報発信のネットワーク参加を募っている。会員は現在 130 名弱である。センター長がほぼ毎日、新聞記事による教育情報や図書情報、素材情報などを発信している。

情報月別発信数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	27	29	35	31	23							
2011	23	15	24	23	28	24	42	22	19	43	26	26
2010			8	12	9	7	7	16	16	20	26	27

5. 教員養成センターNewsletter の発行・学校現場への配付

勉強会の報告や免許状更新講習の報告などをHPに掲載するだけでなく、手に取りやすい紙ベースによって、本学の真摯な教職課程の活動を一層周知することを目的としている。昨年度は、第5号から第8号まで年4回のペースで発行した。2012年度も同様に発行する。

6. 教職課程機関誌 VOL.2 の発行

2011年度の活動内容をまとめるだけでなく、研究誌としての性格を持たせるため、中学・高等学校の教員にも実践報告等の投稿を呼びかけ、今回5名の中学・高校教員の投稿を得た。また、本学教員も実践報告や研究ノートに掲載し、本学の教職課程の信頼を高めるよう努力している。

Vol.2は152ページ(A4サイズ)と充実した内容になった。次年度はあと30ページほど学生の活動報告が増える予定である。

V. 大学院・研究所・社会的貢献

1. キリスト者大学院生奨学金制度の設定

キリスト者大学院生はこれまで入学実績がないが、今後、入学しやすくするための奨学金制度を検討したい。ただ財政上の問題があり、現時点では具体化には至っていない。

2. 大学院生による研究会

国際共生研究所での研究会で大学院生の報告を実施することができ、さらに大学院教授会でも報告する機会を設けた。研究成果が大学紀要に掲載する機会も認められた。

3. 大学院入学資格の検討

男女共学の可能性は今後の検討課題である。いくつかの女子大学の大学院では共学を実施しているところがあるが、聞き取り調査を個人的に実施した段階である。

4. 国際共生研究所研究活動・アウトプットの充実

(1) シンポジウム・講演会実施報告

・2011年6月17日 講演会／ワークショップ

「難民支援 NGO RAFIQ を迎えて～当事者の語りに耳を傾ける～」

支援者のお話：田中恵子(RAFIQ)

当事者のお話：H(コンゴ民主共和国出身)、W(スリランカ出身)

企画・運営：本学学生有志実行委員会、奥本京子 本学教授

出席者：42名(本学学生28名、本学教員6名、一般8名)

・2011年10月21日 講演会／ワークショップ(協力:RAWAと連帯する会)

「マラライ・ジョヤの生の軌跡 ～アフガニスタン女性人権活動家の物語～」

ゲストの講演：マラライ・ジョヤ

支援者のお話：桐生佳子 RAWAと連帯する会

企画・運営：本学学生有志実行委員会、奥本京子 本学教授

通訳：武井優美子 サイマルアカデミー大阪校 セミナー受講生、

山脇悦子 サイマルアカデミー大阪校 セミナー受講生

出席者：125人(本学学生20名、本学教員7人、一般98人)

・2011年10月31日 シンポジウム

「公正で平和な世界へ：国際共生の意義と役割」

パネリストと報告タイトル：

佐々木 寛 新潟国際情報大学教授 「『国際共生』概念の積極的な意義について」

千葉 眞 国際基督教大学教授 「共生の多様な意味合い」

奥本 京子 本学教授 「過程としての国際共生:紛争転換の視点から」

司会: 黒澤 満 本学教授

出席者:20 名(本学学生 9 名、本学教職員 9 名、一般 2 名)

・2012 年 1 月 7 日 講演会

「環境問題講演会—国際共生の観点から」

講師と演題:

井上 真 東京大学教授 「自然資源の『協治』から『国際共生』を考える」

高村ゆかり 名古屋大学教授 「『対立』か『協調』か—気候変動問題と国際共生」

司会: 西井 正弘 本学教授

出席者:27 名(本学学生 3 名、本学教職員 11 名、一般 13 名)

・2012 年 2 月 27 日 講演会

「『受容バイリンガル:『話す』ことはバイリンガルの必要条件か」

講師: 山本雅代 関西学院大学教授

司会: 加藤映子 本学教授

出席者:13 名(本学学生 1 名、本学教職員 9 名、一般 3 名)

(2)各プロジェクトの研究会報告

a)プロジェクト 1 研究会

第 17 回 2011 年 4 月 13 日 報告者 元 百合子 教授

「マイノリティの権利に関する国際基準の進展と課題」

第 18 回 2011 年 6 月 1 日 報告者 馬淵 仁 教授

「共生の可能性を探る—教育における挑戦」

第 19 回 2011 年 7 月 20 日 報告書 奥本 京子 教授

「共生と平和ワーク:アクター(主体)は誰か」

第 20 回 2011 年 9 月 12 日 報告書 浦川 紘子(博士後期課程)

「WHO たばこ規制枠組条約におけるシステム的特徴」

第 21 回 2011 年 10 月 5 日 報告書 木村 美香(博士前期課程)

“The Evolution of the Concept of Gross National Happiness in Bhutan”

第 22 回 2011 年 11 月 9 日 報告書 沖永 真由美(博士前期課程)

“Hmong’s Adaptation to American Society”

第 23 回 2012 年 1 月 18 日 報告書 円城 由美子(立命館大学国際関係研究科博士後期課程)

「イラク避難民問題から見たイラク社会の現状——サダム・フセイン後の社会
変容と今後の展望」

第24回 2012年3月6日 報告書 前田 美子 准教授
「科学教育とジェンダー－国際協力の視点から－」

b) 刊行物等

ニュースレター 2011年4月15日 第3号発行 2000部
叢書2『国際関係入門－共生の観点から－』東信堂 2011年6月1日発刊
ニュースレター 2011年11月15日 第4号発行 2000部

5. 学内研究会及び紀要の充実等

(1) 学内研究会

学内の専任教員による研究会を実施し、研究の相互活動を計った。2011年度は以下の教員が発表を行い、21名の参加があった。

開催日時 2011年2月16日(水)13:00～14:50

発表者	発表タイトル
-----	--------

- | | |
|---------------------|---|
| ・ 教授 智原哲郎 | Testing as a teaching device |
| ・ 教授 Donna Fujimoto | Conversation analysis research and pedagogy |
| ・ 教授 黒澤満 | Nuclear disarmament |

(2) 紀要の発行

2012年3月発行の2011年度紀要については、以下の投稿数があり、査読を経ての採択数は以下の通りである。短期大学への投稿数が少ないことが今後の課題である。2011年度は関根秀和教授に特別寄稿をお願いした。

2011年度の紀要については、投稿数 13本、採択数 12本で、内訳は論文 6本、研究ノート 2本、実践報告 4本だった。

6. 競争的研究資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的資金の獲得への働きかけが不足だったため、獲得した科学研究費補助金は分担者としての合計3件、金額計135万円にとどまった。

7. 大学叢書・研究所叢書の発刊

- (1) 大学・短期大学叢書刊行規程の再整備は完了していないので、検討を継続する。
- (2) 国際共生研究所叢書2 黒澤満編著『国際関係入門－共生の観点から－』、東信堂
2011年6月1日刊行、187頁

執筆者: 黒澤満、奥本京子、香川孝三、元百合子、西井正弘、前田美子、崔大龍、馬淵仁

8. 研究所活動の社会的貢献

上記の研究所主催シンポジウムや講演会は一般に公開され、広く宣伝されたため、外部から多くの人々が参加した。黒澤満編『国際関係入門－共生の観点から－』は、大阪女学院大学の1年

生の講義「国際関係入門」も授業のテキストとして使用しており、また「国際公共政策」の授業でもテキストとして利用しているが、本書は国際関係の入門書として一般の書店で販売されており、国際関係を学ぶ大学生などにとって有意義な書物となっており、研究所活動の大きな社会的貢献となっている。

9. 研究成果に基づくシンポジウム等の開催・公開

上記のシンポジウム「公正で平和な世界へ：国際共生の意義と役割」および講演会「環境問題講演会－国際共生の観点から」は、研究所の今年のテーマである「国際共生とは何か、またその意義は何か」を追求するシリーズの一環であり、今後、人権および開発・文化に関しても同様のシンポジウムの開催を予定しており、これらの研究成果をまとめて叢書3として刊行する予定である。

10. 公開講座

大学開放プログラムとして、学生・市民対話シリーズ「グローバル化が進行する経済活動と日本の課題－激動する為替 揺れる国際情勢－」を本学で開催した。大学の知的資源を市民に還元する目的で、日韓の真の和解をテーマに2005年から5年間シリーズで展開したが、今回は最近の国際金融動向を中心として実施した。

東日本大震災で被害を受けた上、円高やユーロ危機の影響で先行きの不透明感が強い現状に関し、専門家の講演と参加者を交えた座談（“トークイン”）により理解を深めた。投資セミナーではなく、現在から将来（過去・現在・未来）に通じる視点を確認するため、社会人と学生、経験者と初心者が、自由に意見交換することをめざしたので、募集人数を30名に限定した。本学学生も多数参加し、講師や社会人の様々な知見に触れ、自ら考えるきっかけとなるなど、好評だった。

尚、1回目と2回目の内容は2012年1月8日（日）の読売新聞に掲載された。

(1) プログラム概要

a) Vol.1 2011年11月27日（日）

第一部（14:00～15:00） 第二部（15:15～16:30）トークイン

講 師：竹中 正治氏（龍谷大学経済学部教授）

「通貨相場で読み解く国際金融情勢と将来展望」

— 円、ドル、ユーロ、人民元の今と将来 —

b) Vol.2 2011年12月10日（土）

第一部（14:00～15:00） 第二部（15:15～16:30）トークイン

講 師：深谷 幸司氏（クレディ・スイス証券 チーフ通貨ストラテジスト）

「波乱が続く為替相場—その背景と国際経済・金融の潮流」

— デイリーリングルームの現場から —

c) Vol.3 2012年1月28日（土）

トークイン・カフェ 「新しい風は日本から」— グローバル化と日本 —

中井 正敏氏（神戸大学大学院経営学研究科 講師）

崔 大龍（Vol.1 モデレーター） 川村 直人（全3回 総司会）

VI. 運営・財務

1. 財務状況の改善策

新図書館建設を延期したが、入学者数が学生募集計画を下回る結果となったため、財務収支は前年比で悪化した。しかし、LL 教室の改修や校門脇の景観改善のための諸工事を実施中、昨年より一段と厳しい支出抑制を行った。その結果、財務収支は当初予算よりも良化した(赤字幅が縮小)。

2. 学長交代に向けての新体制づくり

2012 年度より学長が交代することになったことから、従来の学内意思決定や運営体制を根本的に改革する案を立て、新年度から新体制が稼働できるように、学内外における準備を進めた。本年度から試行を開始した事務職員の労働制度変更(年間変形労働制)の結果を確認し、更にもう一年試行を継続することになった。なお、現在の財務状況を背景に、2012 年度には事務職員の評価制度の導入や給与制度の改訂を行うこととする。

3. 自己点検評価活動の実施体制の充実

2012 年度4月に実施に移された大学カリキュラムの全面改訂の検討と実施準備のためにほとんどの教職員が検討に参画する多くのワーキンググループを立ち上げ、年度当初から検討を重ねた。さらに拡大ワーキンググループや教授会で徹底した議論を重ねて、年度末の教授会での決定に繋ぐという作業に大学・短期大学の全学を挙げて取り組んだため、2009 年度に設定し、2 ヶ年間実施してきたコントローラー機能については、実質的に運用に注力する余裕がなく継続できなかった。なお、専任職員を対象として導入予定である年間変形労働時間制については、各部門で、学生へのサポート力を維持、向上しつつ、労働時間短縮を図るための試行に取り組むことができた。

4. 相互評価の充実・第三者評価の導入

国立大学と私立大学の数大学によって取組の始まった学生に対する調査内容を統一して行うアンケートへの参画を視野に調査を行った。複数の他学との相互評価に繋がる実質的な取り組みとして注視している。

卒業生やその保護者などを中心とする学校関係者以外による評価の機会を設定する企画については実行できなかった。

5. アクティブなアドミッション活動による学生募集の推進

昨年度からアドミッションセンターに統括責任者を配置し、組織体制を強化して今後 3 カ年間のアドミッション・ロードマップを策定した。今年度はその 2 年目にあたり、短期大学として実施初年度となる新カリキュラム内容に加えて、大学が 2012 年度から学部組織変更および教育改革としての新専攻の設置に伴い、その目的等について広く周知するため、大幅な修正を加え、以下の各種事業を展開した。

学生募集委員会は、4回開催し募集広報体制および広報戦略について費用対効果の観点も含め具体的企画案を決定した。

高校訪問は、昨年度設置した訪問チーム(メンバーと訪問校の固定化)を中心に、訪問目的毎に一部訪問校の時点修正をおこない、近畿圏内の高校延べ670校(昨年度593校)に在学生の近況報告、直近の入試案内、短大新カリキュラムと大学改革についての内容の周知を目的に実施した。

在学生による母校訪問は、夏休み期間中に昨年同様学生参画のための試行事業として、大学生活の近況や学びの現状、加えて大学のPRもおこなってもらった。学生の報告書からは総じてこの企画が好評であり、改めて大阪女学院を選んだ自分に自信と更なる自己研鑽を誓う報告もあった。

オープンキャンパスは、今年度新たな学生参画の企画として一年生のオープンキャンパス協力者を公募し、研修を積んでオープンキャンパスに協力してもらう学生参加型方法を採用、開催回数も高校生が参加活動しやすい7月に4週連続して開催するなど、昨年より3回多い13回開催し、延べ参加者数は479名と昨年より28名上回った。

広報活動は、直接の受験生や保護者そして高校教員との接点となるものはパンフレット類であり、それぞれの目線にあった「共感の場」を誌面上で同時に創出するのに腐心した。

そしてリーフレットやチラシ等も作成し、合わせて延べ10万部余りを発送した。また、各種入試要項等も近畿圏を中心に述べ13,900校余りに発送した。さらにHPの更新、過去問題集(赤本)も製本し1,700冊を発送した。連合広告の掲出は13回と少なかったが、広報プレスリリース記事掲出については、大学改革が中心ではあったものの、短期大学についても5回にわたり、4紙掲載等おこなった。

資料請求者等へのDM配信については、業者を通じたDMを含め、延べ約3万5千名宛効率的な配信をした。

大学説明会は、高校教員対象公開授業を7月に4日間実施し53名の参加者を得た。また、今年度は高校教員対象説明会を公開授業と同日の2日間実施し59名の参加を得た。さらに塾・予備校向けにも7月説明会を実施し、主に短期大学カリキュラム、大学改革内容を中心に周知を図った。また、業者主催の説明会・相談会・模擬授業・資料頒布会については176校で、高校外は34会場で実施した。

入学試験は、今年度12回実施した。結果として、大学は募集人員150名に対し、受験者205名(昨年より41名減)で合格者185名(昨年より37名減)入学者96名(昨年より29名減)となった。大学院は、博士前期課程1名入学した。そのほか2名の編入学者があった。

6. 機関リポジトリ構築連携事業

国立情報学研究所(NII)「学術機関リポジトリ構築連携事業」の採択2年目となり、委託金180万円を受託した。特色を活かしたコンテンツの充実をはかり、研究成果物、教材、学院史料などデータ1,124件を登録し、本文287件を公開した。また、今後の学習スタイル構想の1つであるオリジナ

ル英語教材のタブレット端末での運用に向けた登録準備をした。

7. 大学・短期大学支援者団体の形成

法人全体の取り組みとして教育後援会(Wilmina 会)を立ち上げ、卒業生やその保護者、新旧職員、本学関係の業者などに対し、本学の教育や学生支援活動に関する理解と支援をいただけるよう働きかける。

8. 教育施設・学習設備の整備・改善

- (1) 老朽化したLL機器を廃棄し、最新鋭のコンピューターによる授業・指導を実現できるマルチメディア教室への改装工事を実施し、老朽施設・設備に起因するトラブルの可能性を排除した。最新鋭の機器で稼働するソフトウェアを導入して、従来の授業の仕方や課題の出し方まで含めた教育手法の刷新を行った。工事の完了により、本館4階の全教室が最新鋭の機器を装備したマルチメディア・フロアとなり、学生の教室移動が便利になり、教室の稼働率も向上した。
- (2) 上記工事に伴い、学生の自習スペースが不足することから、新入生に対しiPadを全面的に活用することとした(従来のiPod活用からのシフト)。これにより、館内全域Wifi環境にあることを活用し、簡単な検索や文章作りはどこでも可能になるユビキタス環境を本格稼働させることになるため、主に教員(含む、非常勤講師)がiPadを教育現場で活用できるように合計 265 台のiPadを一括発注し、新学期にむけた準備を開始した。
- (3) 段階的に進めている教室の空調施設更新をさらに進展させた。
- (4) 校舎内の床の張り替え工事など、学生が使用する施設や教室の家具の一部を更新した。
- (5) 学生募集状況や補助金行政の変化などを勘案し、新図書館建設を延期したため、建設予定地を学生・生徒の憩いの場として活用する措置として、校門脇の自転車置き場の移設・整備などに着手した。この他にも、キャンパスの景観向上と学生の居場所作りを継続する。

以 上